土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　砂防指定地内河川　鍋屋谷川　通常砂防事業に伴う測量・地質調査・設計業務委託（交付金）　一級河川　江の川水系　鍋屋谷川

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.3	**調査位置**	広島県三次市粟屋町			**北緯**	34° 47′ 46.2650″
発注機関	広島県北部建設事務所			**調査期間**	2022年 1月 17日 ～ 2022年 1月 18日	**東経**	132° 49′ 55.1310″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 219.46m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 40°
総削孔長	6.00m					**使用機種**	

試錐機	東邦地下工機　D1-C48		
エンジン	ヤンマー　NFD-12	**ポンプ**	東邦地下工機　BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
	219.11	0.35		砂礫		黄褐～褐			新生代第四紀完新世	表土に相当。中礫以下の礫分を多量に含む。	
1 2	216.46	3.00		強風化流紋岩		黄褐			中生代白亜紀	強変質を伴った基盤岩である。全体に砂礫～砂状コアをなし，変質の強い所では粘土混じりである。岩片として認める部分はやや軟質な程度の硬さを有す。ただし，全体としては指圧で容易に崩せる程度の土砂化岩盤である。貫入試料の含水は低く，少し湿った程度である。【DM級，礫混じり土に相当する】	02/18 1.10
	215.66	3.80		強風化流紋岩		黄褐				変質の程度に大きな差はないが，少し岩片が多くなる。指圧でコアを崩すことは可能である。【DH級，軟岩Ⅰに相当する】	
4	215.26	4.20		風化流紋岩		灰褐				局所的に岩片が主体となる。層として広がりのあるものには見えない。【CL級，軟岩Ⅰに相当する】	
5	213.96	5.50		強風化流紋岩		黄褐				再び変質が強まる（特に5.0m付近まで）。変質粘土に小岩片が浮いたような組織である。コアは軟らかく，指圧で崩すことは可能である。5.0m以深，岩片が多くなる。【DH級，軟岩Ⅰに相当する】	
6	213.46	6.00		風化流紋岩		灰				やや急激に変質が収まり，岩本来の色調が強くなる。角礫状コアとごく短柱状コアが繰り返し，岩盤状況は安定しない。岩片は中硬質である。【CL級，軟岩Ⅰに相当する】	

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
30	1.15 / 1.45	9	10	11	30/300		
35	2.15 / 2.45	13	11	11	35/300		
107	3.15 / 3.29	31	19/40		50/140	140	
500	4.00 / 4.03	50/30			50/30	30	
115	5.10 / 5.23	34	16/30		50/130	130	
750	6.00 / 6.02	50/20			50/20	20	

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					1/17
					1/18